

第3回ESD連続セミナー概要報告

奈良教育大学 大西 浩明

- ◇実施日時 2024年7月2日(火) 19時～21時
- ◇方法 ZOOMによるオンライン開催
- ◇参加者数 59名
- ◇内容 「ESDの学習理論」 中澤静男教授
「ESDの授業づくり ～单元構想案の作成～」 大西浩明特任准教授

○「ESDの学習理論」

たとえば、環境を壊すのも人なら、修復するのも人

人々の行動の変革を促すには、どうすればいいのか？

「ひと・もの・こと」にcareできる人を育てなければならない 人間性

人間性を育てるために、実社会を教材に、説明—納得型ではなく問題解決型の学習を展開する

持続可能な社会の実現には、

- ・国際協力
- ・技術革新 ……トップダウン
- ・新しいシステム(制度)
- ・多くの市民の参加・協力……ボトムアップ → 教育によって

現行の学習指導要領では、「持続可能な社会の創り手を育てる」ことが明文化された

そこで言われる3つの資質・能力とは？

- ①知識・技能 事実に基づく知識(断片的知識)
- ②思考力・判断力・表現力 知識の構造化(概念的知識) 説明できる知識
覚えるより考えさせる授業を
- ③学びに向かう力・人間性 価値的・判断的知識
ESDでは、課題を自分事化し、自分ができるところを考え、行動化を促す

「主体的・対話的で深い学び」とは？

- ①「主体的」 子どもが自分から取り組むこと
学習内容が子どもにとって切実感・必要感があるもの、興味・関心があるもの
- ②「対話的」 一斉授業ではない 一問一答はだめ
対話の教育的価値
- ③「深い学び」 子どもの生き方や考え方、行動に影響を与えるような学び
知識+感動(発見・驚き・感動)のある学び 他の学習にも転移する汎用性のある学び

行動の変革を促すのは？

- ・合理的(論理的)意思決定論……認知的葛藤による意思の転換
- ・直感的意思決定論……ソマティックマーカーによる情動の発動
「変革をもたらす行動がどのように行われるか。それは個人的な信念、洞察、あるいは何が正しいか」

いかという単なる感覚から生じることが最も多い。」

(ユネスコ持続可能な開発のための教育ロードマップより 2023)

ESDにおけるソマティックマーカー仮説 (持続不可能な状況に「気づく」ために)

ソマティックマーカーは、生き残る確率を高めるためのもの

→ すべての動物に先天的に備わっている (ネガティブ信号、ポジティブ信号)

しかし、人間は経験や教育によってさらに鍛えることができる

生き残るために地域の社会文化に即したふるまい

行動を促すソマティックマーカー装置 など

→ あらゆる機会を活用して「持続可能性に気づく力」を育てる必要がある

☆ソマティックマーカーテスト

- ・「おかしい決め方」 なんか決め方がおかしいことに経験上気づくことができる
- ・「どちらの店で買う？」 われわれは咄嗟に単価を計算して安さを求めてしまう
- ・スーパーのチラシから 旬でないもの、フードマイレージ
- ・うなぎはどれを買う？ どうしても土用に絶滅危惧種の鰻を食べないといけないのか

☆見ている気づけない脳の特徴

何が描かれているか？

脳は外界からの情報と記憶として蓄えられている情報から情報処理を行う

→ 意識化できる



意識することで認識できる 認識することで意識化できる

意識化を促すもの

- ・繰り返し学ぶ、繰り返し経験する、多様な場面で多様な方法で学ぶ (記憶の蓄積)
- ・仲間とともに学ぶ (対話・協働)
- ・感性を伴って学ぶ (現地見学、人から学ぶ、体験活動)

価値観を養うもの

- ①世代内・世代間において、自然環境や生態系の保全を重要視できる価値観
生き物探し、海ごみ、気候変動、水の恵みなど
 - ②世代内・世代間において、人権・文化を尊重できる価値観
横の異文化・・・食文化、宗教、民族衣装、トイレなど
縦の異文化・・・生活習慣の移り変わり、歴史文化遺産、祭りなど
- 子どもにとって身近な素材の教材化

「このアジェンダは、人間、地球及び繁栄のための行動計画である。」 幸福 (ウェルビーイング)

『幸せの四つ葉のクローバー』(前野隆司)

やってみよう因子、ありがとう因子、なんとかなる因子、あなたらしく因子

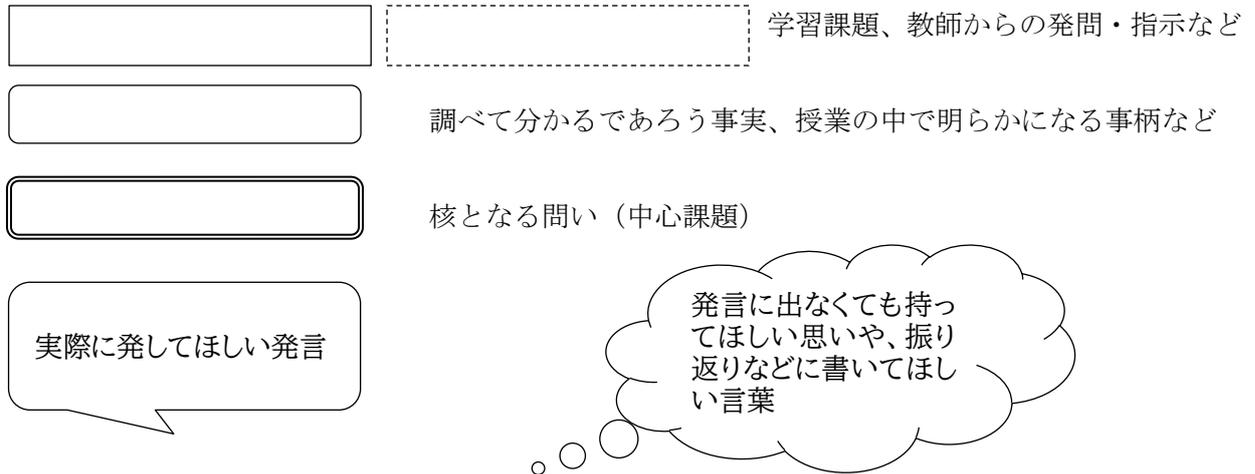
○「ESDの授業づくり ～単元構想案の作成～」

◆どれだけ具体的に授業をイメージできるか

子どもの反応（発言、疑問、思い、どう動くか・・・）をイメージしないと、具体的にはならない

単元構想図

具体的な授業をイメージして、児童・生徒が発するであろう言葉や、もつであろう思いなどをマップ化して、学習の流れを可視化したもの（1枚もので一目で見えるように）



◆問いの質を高める

探究的な学びを進めていくには、問いの質が重要！

- ・単元の目標につながるもの
- ・単元の流れで必然性があるもの
- ・答えがいくつあるもの
- 言葉やその使い方にこだわる

子どもの疑問や思いから醸成されたもの
単なる教師からのトップダウンではないもの

- ① 単元を通して核となる問い
- ② ①を深めるための問い
- ③ ①を発展的に考える問い

単元展開の中で、こういうことについて、考えさせたい、話し合わせたい、自分なりの行動計画を立てさせたいというものを明確にできるなら、どの問いから考えてもいいと思います。

◆ESDの授業を構想する際には・・・

その題材（教材）を通して学習することで、

- ・どんなESDの見方・考え方を働かせることができるのか
- ・どんなESDの資質・能力を育てることができるのか
- ・どのようにESDの価値観を変革させようとするのか
- ・どのようなESD的な行動化を求めようとするのか

視点、資質・能力、価値観については、項目だけを羅列するのではなく、学習内容に落とし込んで、その説明を書く。



SDGsの何を達成することに貢献するのか

こういったことは後付けでいい！

はじめからESDの授業を作ろうと思わず、「主体的・対話的で深い学び」となるものとして、具体的な子どもの姿をイメージして考えること！

小学校5年 総合的な学習の時間「そして、駅舎は残った！」(全10時間)

みつめる



どこだか分かる？

お寺みたいで奈良らしい！
これってもともと駅だった？

JR奈良駅のところ！
中にスタバがある！

旧駅舎を見に行こう

- ・屋根が五重塔みたいになっている。(相輪・風鐸など)
- ・レンガ造りで古い感じがいい。
- ・柱の彫刻や窓の感じが外国っぽい。
- ・「近代化産業遺産」って書いている。



「古都のシンボル」市民、保存運動へ

なぜJR奈良駅舎は残ったのだろう？

取り壊されるはずだった？

どのようにして残ったのか調べてみよう

しらべる

- ・1998年、JR奈良駅の高架化のため、旧駅舎の解体が決定したが市民の反対運動が起こる
- ・岩崎弘さんら20人余りが中心となって、「JR奈良駅舎を生かす会」が結成される
- ・粘り強い署名運動などにより、2002年に一転保存することが決定
- ・2003年、約4億円をかけてそのまま北東へ18m曳家方式で移動させる
- ・現在、総合観光案内所や商業施設が入って再利用されている

この間、岩崎さんたちはすべてボランティアで活動を進めた

奈良の人たちが
みんなの力で残
したんだ！

一度取り壊しが決
まっていたのに、県
や会社を動かすな
んてすごいこと！

保存運動ってすご
く大変だったんじ
ゃないかな？

岩崎さんたちは、そ
んな大変なことを
なぜそこまでした
のだろう？

なぜ岩崎さんたちはそこまでしたのだろう？

ふかめる

岩崎さんに話を聞こう

- ・「本当にいいもの」は残さないといけない
- ・壊してなくなってしまうと思い出を語るしかない
- ・だから、そこに残っていることが大事
- ・奈良の人たちは「いいものが何か」「どうやって残していけばいいか」を知っている
- ・だからみなさんもできるはず！

岩崎さんたちの運動がなかったら
駅舎は今ももうないと考えたら、
行動することが大事なんだな。

奈良には「いいもの」がたくさん
あるから、それがなくならないよ
うに自分たちががんばらないと。

「いいものを残す」ために、わたしたちは何をしなければいけないだろう？

ひろげる

奈良の「いいもの」
をもっと知ること
から始めたい。

一人ではできない
ことも、みんなで協
力していけばでき
るはず。

岩崎さんのように
「いいものは残す」
という信念を持っ
ていたい。